

◎今週の御言葉 「良き羊飼いであられるキリスト」(エゼキエル書34章7～15節、ヨハネの福音書10章7～18節)

「わたしがわたしの羊を飼い、わたしが彼らを憩わせる一神である主のことば―」(34:15) 「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。」(10:11)

「わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。」(10:14)

◎私たち一人ひとり羊のように迷いやすいのです。その私たちのための真の羊飼いと一体誰でしょうか？

◎エゼキエル書34章の主題は「イスラエルの牧者」です。「イスラエルは」は南北両方の王国のすべてのユダヤ人を指す。エゼキエルはイスラエルの指導者達を、その民ではなく自分たちの面倒しか見なかったと言って非難した。エゼキエルは彼らの罪を並べ立て(34:1-6)、さばきの宣言をした(34:7-10)。そして彼は、指導者達がやるべきだったように、民の面倒を見てくださる(34:11-31)良い羊飼(救い主)がやってくると約束した。**悪い牧者達**(自分自身の世話をする、自分自身の健康を心配する、力ずくと暴力で支配する、自分のために最善のものを取っておく)、**良い牧者**(群れの世話をする、弱って病気の者を強め、失われた者を探し、愛と優しさで支配する、羊を集めて守る、羊のために最善を尽くす)。

◎ヨハネの福音書10章の主題は「羊飼」です。羊はしばしば、夜間には、泥棒や天候、野生動物から守るために羊の囲いの中に集められた。牧者は、羊を守る囲いの出入り口の所で眠った。良い牧者であるイエス様はご自分の群れを気遣ってくださる。預言者エゼキエルは、メシアを牧者と呼んでいる(エゼキエル34:23)。羊の囲いで、牧者は門の役目を果たし、羊を中に入らせ、守る。イエス様は、神への救いへの門である。イエス様は門であり、神に近づく唯一の道である。別の道を探す必要は無いのです。盗人は命を狙うが、イエス様はいのちを与えてくださる。イエス様が与えてくださるいのちは、非常に豊かです。それは永遠であり、しかも直ちに始まる。キリストにあるいのちは、イエス様の満ちあふれる赦し、愛、導きのゆえに、高い水準に生かされる。雇い人は、お金のために羊の番をするが、牧者は愛からそのことをする。牧者は羊の所有者であり、羊に専心する。イエス様は愛することに専心し、私たちのためにいのちを犠牲にさえされるのである。「他の羊」とは非ユダヤ人である。イエス様はユダヤ人だけでなく異邦人を救うために来られたのです。イエス様の使命は、世の人の罪のために死ぬことであったのです。